

【資料】

平成27年度 林業研究・技術開発推進 関東・中部ブロック会議育種分科会

小野 雅子^{*1}

9月14日、農林水産省講堂において、都県との連携による林木育種の推進を目的として、林野庁・森林総合研究所共催の平成27年度林業研究・技術開発推進関東・中部ブロック会議育種分科会が開催され、林野庁、林木育種センター、関東育種基本区の13都県等から合計48名が出席した。また、9月16日には育種分科会現地検討会があり、千葉県にて海岸林や採種園等の視察が行われた。

林木育種事業を巡る動きについて

林野庁から、苗木安定供給推進事業、特定母樹の増殖および花粉発生源対策について説明があった。林木育種センターからは、特定母樹の普及に向けて高速育種運営会議を発展的に解消し、特定母樹等普及促進会議が新たに設置されたことが報告された。また、今年度行われた第1回優良品種・技術評価委員会の概要及び今中期計画の成果のとりまとめとなる「林木育種の最前線」について8月に発行したと報告があった。

特定母樹等普及促進会議の概要及び特定母樹の普及について

7月28日に関東育種基本区で開催された特定母樹等普及促進会議の概要について林木育種センターから説明があった。同特定母樹等普及促進会議については林木育種センターで開催され、林木育種センター、福島森林管理署、茨城県林業技術センターから特定母樹に関する報告があり、茨城森林管理署管内の特定母樹等コンテナ植栽地などの視察が行われた。また、特定母樹の原種配布の流れと、認定特定増殖事業者の認定状況等について報告があった。

林木育種事業の推進について

関東育種基本区では、マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発について、平成27年度は一次検定を茨城県・

千葉県で、二次検定を千葉県内で選抜された系統を林木育種センターで実施していることが説明された。エリートツリーについては、林木育種センターにおいて平成27年度にスギで開発を行うこと、また、スギ及びカラマツのエリートツリーのうち指定基準に達すると考えられるものを特定母樹に申請する予定であること等の説明があった。普及に関しては、花粉症対策に全ての都県で取り組んで普及を進めていること、また、特定母樹については、現在茨城県及び福島県にスギ特定母樹採種園が造成され、群馬県・山梨県・長野県でカラマツ特定母樹採種園の造成予定があることが説明された。また、中部森林管理局からは、カラマツ採種園の管理状況などの報告があり、カラマツ種子不足に向けての取り組み状況が紹介された。林木遺伝資源の収集・保存についても、林木育種センターと茨城県、群馬県、神奈川県で行っている取組がそれぞれ紹介された。

提案要望事項について

関東育種基本区の都県から育種事業の拡充や特定母樹の特性等について提案・要望等があり、林野庁もしくは林木育種センターからの回答があった。

現地検討会について

今年度は9月のブロック会議と同日程で、現地検討会が千葉県で行われた。九十九里海岸でクロマツの植栽試験地、千葉県農林総合研究センター及び上総試験園でクロマツコンテナ育苗試験やヒノキミニチュア採種園の視察があった。

* E-mail: masakono@affrc.go.jp

¹おのまさこ 森林総合研究所